

ジュニア賞

Blood donation ～どこかで生きるあなたへ～

土田 恵穂 (高校3年生：宮城県)

外出をすると、「献血にご協力お願いします」と書かれた看板を持った人が立っているのをよく見かける。しかし、街ゆく人々はそれに目もくれず、忙しなく通り過ぎて行くばかりだ。自分は健康だから関係ない、と、誰かがやるから別に自分はやらなくてもいいだろう、と。中には、献血が怖い、やり方がよく分からない、という人もいるかもしれない。私も初めて献血に行った時は不安だった。

そこで、私は献血の流れを誘導してくれるゲーム「Blood donation～どこかで生きるあなたへ～」を考えた。これは、プレイヤーが実際に献血に行くことでプレイ出来るゲームである。

- ①位置情報を ON にすることでマップが表示され、近くの献血ルームまで誘導してくれる。
- ②献血ルームに着いたら、血圧を測るなどの必要事項を順番に沿って説明してくれる。
- ③係の人に自分のアカウントを伝えることで、そこに血液型やその日のヘモグロビン値などが自動入力される。
- ④献血中は血行を良くする簡単なゲームがプレイ可能。
- ⑤献血が終わるとポイントがゲットできる。

以上が「Blood donation～どこかで生きるあなたへ～」の大まかな内容である。しかし、ここでゲームは終わらない。献血の全ての手順が終わると、自動的にタイムラインへ移動する。そこには実際に献血のおかげで助かった患者さんのつぶやきが。たとえ、その患者さんの元に届いた血液が自分のものでなくても、自分が人の役に立つことが出来たという安心感を間接的に感じる事ができると考えた。

他にも、現在それぞれの血液型でどれくらいの人が血液を必要としているのか、また、その日にどれくらいの人が献血に協力したのかを視覚的に感じられる仕組みも取り入れればより良いとも思った。

これから先、“献血”というものがこのゲームによって、さらに日常的なもの、当たり前のものとなる日が来るといいなと思う。